

ながれやま 博物館だより

第2号（令和4年12月／年2回発行）

博物館から

● これからの講座・展示

詳細は広報ながれやま、博物館ホームページ等でご確認のうえ、お申込みください。

寺子屋講座

12/17	出土品の整理作業をやってみよう
1 / 21	埴輪について学ぼう
2 / 18	貝塚について考えてみよう①
3 / 18	貝塚について考えてみよう②

子ども教室

12 / 3	木の実工作
12/18	昔の印刷機で年賀状を作ろう！
2 / 4	勾玉を作ろう！
3 / 4	茶道教室

古文書講座

2/12・19・26	後期
------------	----

※日程・内容は変更になる場合があります。

● 期間限定 博物館実習生による展示

8月24日から9月1日まで、博物館実習が行われました。博物館実習は博物館で働く学芸員の資格を得るために必要な大学の授業で、今年度は7名の実習生を受け入れました。

実習では初めての展示制作に挑戦しました。市内を走る流鉄流山線をテーマに、数ある資料のなかから古い時刻表や車両の写真などを選び、展示を作り上げました。資料の説明も実習生が考えたものです。

学芸員の卵、実習生の力作をぜひご覧ください。常設展示室内にて、令和5年3月までの期間限定展示です。

（伊藤智比古）



展示会情報

● 小展示「昔の道具～100年前にタイム・トリップ～」

★会期：令和5年1月21日(土)～3月12日(日)

電気やガスや水道が当たり前ではなかった「ちょっと昔」を、残された道具から振り返ります。

「衣」「食」「住」と「火」に関する道具をそれぞれ10数点ずつ展示するほか、昔から今へと道具の変化がわかる「道具年表」を実物の資料で再現します。



会期中休館日 月曜日、1月31日(火)、2月28日(火) **会場** 第二展示室 **観覧料** 無料
※マスクを着用の上、お越しください。団体見学を御希望の場合は事前に御一報ください。



● 季節展示「『ちょっと昔』のひな人形」

★令和5年2月～3月上旬(予定)

常設展示室江戸川台住宅において、期間限定で展示します。

(上條静香)

これからの講座

● 貝塚について、学んでみませんか？

2月と3月に、寺子屋講座「貝塚について考える」を実施します。

全国には約2500か所の貝塚があり、その約3割にあたる773か所の貝塚が千葉県内にあります。貝塚というと「海のそばに縄文人が作った遺跡」というイメージがありますが、実は流山市には33か所の貝塚が所在し、県内でも有数の貝塚密集地帯です。

寺子屋講座「貝塚について考える」では、市内の三輪野山貝塚をはじめとする調査成果をもとに、貝塚について考えていきます。担当学芸員が専門とする「動物考古学」の知見をもとに、実際に貝塚から出土した貝や骨を用いて、参加者とともになぜ「海のない流山に貝塚があるのか」や「縄文人の生活・生業」について考えてみます。

(宮川博司)



発掘現場から

● 発掘調査速報—野々下貝塚—

令和4年10月、流山市野々下にある野々下貝塚で発掘調査を実施しました。野々下貝塚は縄文時代後期～晩期（約4000～2500年前）の遺跡で、過去にも発掘調査が行われています。

貝塚は、本来地中で溶けてなくなってしまうものが貝殻の成分により保護されて残っており、そこで見つかる貝や動物の骨などは当時の生活や環境を知ることができる貴重な資料です。

今回の調査では、縄文時代の竪穴住居跡や貝層が確認されました。住居跡からは縄文時代後期の土器、貝層からは動物の角^{つの}を加工したアクセサリーの腰飾りなどが出土しました。

今後調査が進んでいくと当時の野々下貝塚の姿がさらに明らかになっていくことでしょう。

（志田藤達紀）



腰飾り



縄文時代の貝層

展示室のはなし

● 展示室はなぜ暗い？

博物館の展示室に入ったとき、多くの方は「薄暗い」と感じることでしょう。展示室には窓がありませんし、照明もかなり控えめです。展示が見づらいと覚えることもあるかと思います。

では、なぜ博物館の展示室は暗いのでしょうか？ それは資料が光によって劣化するのを防ぐためです。紫外線をはじめ、強い光が長期間当たることによって資料が色あせたり、変色したりすることがあります。光による劣化の度合いは資料の種類によっても異なり、紙や布、絵画などは特に光の影響を受けやすく、劣化の危険と隣り合わせです。

そこで、展示室では紫外線が出ない電灯を使ったり、照明の数を減らしたりして、資料へのダメージを減らす工夫をしています。博物館は、資料を現在だけでなく、将来の人々も見ることができるよう保存する使命を負っています。見ることと残すこと、この二つを両立させるため、展示室は暗くなっているのです。資料が見づらいと覚えることもありますが、私たちの目には暗所に慣れる機能があります。目が慣れるのを待ちつつ、ゆっくりと展示を見て行てはいかがでしょうか。

（伊藤智比古）

● 企画展「流山小学校—地域とともに150年—」を開催しました

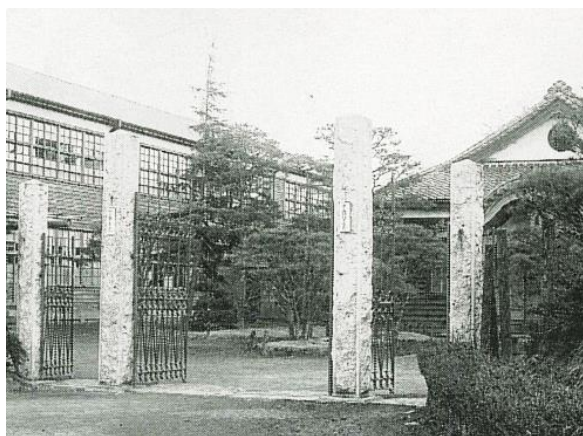
7月16日（土）～11月13日（日）、企画展「流山小学校—地域とともに150年—」が開催されました。来場者は計10,852人にのぼりました。展示ではご紹介しきれなかったエピソードをいくつかご紹介します。



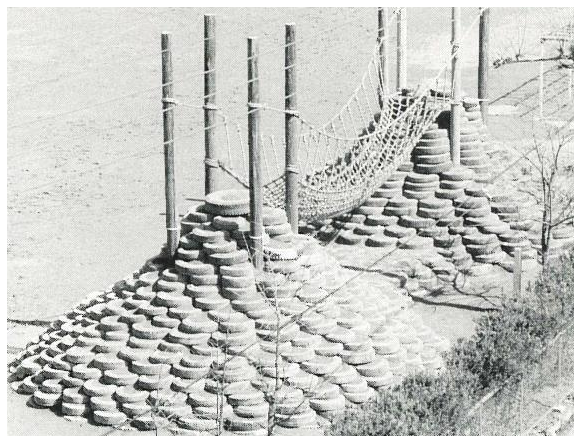
明治22年（1889）、流山小学校が発祥の地である常与寺から現在の敷地に移ったとき、新しい校舎の玄関は常与寺の本堂入口をかたどって作られました。これは大正5年（1916）に玄関前で撮影された卒業写真を調べて明らかになったことです。また、現在ある校門の門柱は、この明治22年の移転のときに作られました。卒業生の話では、鉄の門扉は戦時中、金属供出のために取り外されたものの、昭和29年（1954）に有志の寄附によって取り付けられたそうです。

かつて流山小学校の校庭にあった遊具「がんばり山」は、昭和52年度の卒業記念作品として作られ、平成8年（1996）に撤去されるまで約20年にわたり愛されました。この設計図が博物館の調査で見つかり、タイヤ約1000個、土が2t ダンプ10台分など多くの材料を使って作られたこと、制作にあたって卒業生がお金を出しあったことなどがわかりました。

企画展を通して、流山小学校は学校行事や地域行事で地元の人々とながれやま博物館とつながり、明治時代から現在まで地域とともに歩んできたことをより一層感じました。（松本武之）



正門（昭和13年撮影）



がんばり山

ながれやま博物館だより 第2号

発行日 令和4年12月1日

編集・発行 流山市立博物館

〒270-0176 流山市加一丁目1225-6

お問い合わせ ☎04-7159-3434

ホームページ <https://www.city.nagareyama.chiba.jp/life/1001780/1001785/index.html>



ホームページ



Facebook



Twitter



Instagram